

目 次

巻頭言

米川元樹

各部門報告

主要論文(2003年)

- ・わたくしと人工臓器 . 川村明夫 . 人工臓器 32: 1-6, 2003.
- ・Therapeutic Apheresis in Japan. Kawamura A. Therapeutic Apheresis and Dialysis 7: 497, 2003.
- ・シャッター型ダブルルーメンカテーテルの開発 . 米川元樹 , 他 . ICUとCCU 27: S192-S193, 2003.
- ・シャント部内膜肥厚防止のための腔内照射 . 久木田和丘 , 他 . 腎移植・血管外科 15: 114-118, 2003.
- ・Induction of specific stress response increases resistance of rat liver allografts to cold ischemia and reperfusion injury. Uchida Y, et al. Translant Int 16: 396-404, 2003.
- ・Preconditioning with tin-protoporphyrin IX attenuates ischemia/reperfusion injury in the rat kidney. Kaizu T, et al. Kidney International 63: 1393-1403, 2003.
- ・Pyrrolidine dithiocarbamate provides protection against hypothermic preservation and transplantation injury in the rat liver: The role of heme oxygenase-1. Tsuchihashi S, et al. Surgery 133: 556-567, 2003.
- ・リンパ芽球性白血病ノリンパ腫 . 木山善雄 , 他 . カレントセラピー 21: 57-61, 2003.
- ・A case of leukemia of the appendix presenting as acute appendicitis. Toubai T, et al. Acta Haematologica 109: 199-201, 2003.
- ・周術期における透析患者に対する麻酔法 . 中尾康夫 . 臨牀透析 19: 773-778, 2003
- ・血圧脈波検査装置を用いた全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の検討 . 沼澤理絵 , 他 . 医工学治療 15: 193-197, 2003.

学会発表

国際学会発表(2003年)

全国学会発表(平成15年)

地方会発表(平成15年)

発表論文

邦文(平成15年)

英文(2003年)

主催学会報告

講演会・研究会報告

編集後記

笠井正晴

医師と患者の信頼関係

特定医療法人北楡会 札幌北楡病院
院長 米川元樹

新聞やテレビで「患者との信頼関係が構築できない医者が多くなった。」「信頼関係が希薄になった。」などと言われるようになって久しい。昨今の医療訴訟の多くが、医師と患者の信頼関係に問題が根ざしているとの指摘もある。そもそも信頼関係という、お互いというニュアンスが込められており、世の中には家族、夫婦、兄弟、師弟、友人、同胞など、多くの信頼関係といわれているものがある。これらの関係は双方向で成り立つものであるから、一応信頼関係という言葉は当てはまる。しかしながら、マスコミが言っている、そして多くの医療関係者も口にする「医師と患者の信頼関係」とは何であろうか。前述したような双方向の関係が成り立つのであろうか。自分が患者になって、病院の玄関をくぐり、初対面の医師を目の前にした時に、誰もが思うのは「この人は訴えを聞いて原因を探り出してくれるだろうか?」、「的確な治療をしてくれるだろうか?」ではないだろうか。これは疑問であり、言い換えると疑っているのである。このような感覚は、ある日突然自分の身に降りかかった、しかし自分自身で解決できない重要な問題を、見ず知らずの他人に言わなければならない状況であるから、しごく当たり前の反応である。最初から全幅の信頼など、あろうはずがない。医療もサービス業とは言われるが、デパートやホテルなどのサービス業と根本的に異なっている。われわれ医療者のなすべきことは、まず疑われている存在であるとの認識に立って、プロに徹して治療に当たること以外にはない。その結果として、筍の皮のように幾重にも重なった疑いの皮が一枚ずつはがれていき、信頼されるようになるのである。したがって、医師と患者の関係は一般的な双方向の信頼関係という図式は当てはまらず、あくまでも信頼するか否かを決めるのは患者さんであり、お互いの関係はあくまでも一方向に比重が高い図式である。若い医師は患者さんや家族は医師を信頼してくれていると思い込んだり、好意的であると感じたがる傾向にあるが、ここに、説明不足や言葉足らずになる落とし穴が存在している。極端な言い方であるが、常に疑われている者であるとの認識に立って対応すべきである。患者さんや家族への説明は、一方的に現在の病状や今後の治療方針などを説明するのではなく、常に患者さんや家族が何を疑問に思っているかを考えた上で、話を進めることが肝腎であろう。話す内容を疑問に対する回答と位置づけることで、おのずから説明の内容、言葉づかい、態度が決まってくると思われる。昨今、若い医師の会話術が不足しているとの指摘が多い。これは医学部が入学試験で最も成績の良い学生が集まるという現行の試験制度の弊害であろう。臨床医に重要なのはコモンセンス、バランス感覚、会話術であり、それらを兼ね備えた学生を集めるような選抜試験制度に改めない限り、卒後臨床研修制度にそって指導医がいくら努力したところで、若い臨床医のコミュニケーション能力不足は解消されないのではないだろうか。

学会発表

国際学会

2003年

・4th World Congress / International Society for Apheresis (October 30 - November 1, 2003 = Nashville, USA)

Therapeutic angiogenesis using peripheral blood stem cells

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

T. Horie, A. Kawamura, H. Sakata,
M. Yonekawa

Successful treatment of ulcerative colitis with leukocytapheresis using non-woven polyester filter

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

H. Sakata, T. Horie, T. Tamaki,
K. Kukita, J. Meguro, M. Yonekawa,
A. Kawamura

Dept. of Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital

N. Kawamura, H. Ohizumi, M. Saitoh

・11th United European Gastroenterology Week (November 1-5, 2003 = Madrid, Spain)

Efficacy of the leucocyte apheresis with the nonwoven polyester filter for the ulcerative colitis

Dept. of Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital

N. Kawamura, T. Katsurada,
M. Tsuyuguchi, H. Oizumi, M. Saito

Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital

M. Yonekawa, A. Kawamura

全国学会

平成 15 年

第 36 回日本臨床腎移植学会(平成 15 年 1 月 29 ~ 31 日 = 下呂)

後腹膜鏡視補助下ドナー腎摘出術の成績

札幌北榆病院 外科

玉置 透, 増子 佳弘, 目黒 順一,
後藤 順一, 池田 篤, 江川 宏寿,
飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

ITP が疑われた慢性腎不全症例に対する生体腎移植の一例

札幌北榆病院 外科

坂田 博美, 玉置 透, 後藤 順一,
池田 篤, 江川 宏寿, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

CAPD 腹膜炎を合併した FSGS 症例に対する生体腎移植の一例

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 後藤 順一,
江川 宏寿, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

生体腎移植レシピエントの禁煙指導について考える ~ セルフケア確立に困難を要した事例を経験して ~

札幌北榆病院 第 6 病棟

成田 円, 相原 雅永, 栗坪 睦子

生体腎移植ドナーの看護アプローチ法の検討 ~ クリニカルパスの使用と共に必要な精神的看護援助を考える ~

札幌北榆病院 第 6 病棟

源川 裕乃, 相原 雅永, 栗坪 睦子

第 3 回日本集中治療医学会総会(平成 15 年 2 月 4 ~ 6 日 = 札幌)

当院 ICU 独自の鎮静効果評価基準を導入して

札幌北榆病院 集中治療室

札幌北榆病院 看護部

札幌北榆病院 麻酔科

長倉 竜也, 清水 美香, 田代 卓良

栗坪 睦子

沼澤 理絵, 中尾 康夫

短期間で生体肝移植の代理意志決定を迫られた家族への関わりを通して

札幌北榆病院 集中治療室

札幌北榆病院 看護部

札幌北榆病院 麻酔科

田村 真美, 清水 美香, 田代 卓良

栗坪 睦子

沼澤 理絵, 中尾 康夫

・第 8 回ブラッドアクセスインターベンション治療研究会(平成 15 年 3 月 1 日 = 東京)

シャッター型ダブルルーメンカテーテルの作製

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 後藤 順一, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

ヘパリンコーティングブラッドアクセスカテーテルの抗血栓性について

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 久木田和丘, 後藤 順一,
江川 宏寿, 池田 篤, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 2 回日本再生医療学会大会(平成 15 年 3 月 11, 12 日 = 神戸)

末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

Rho 特異的グアニンヌクレオチド交換促進因子 ECT2 の肝再生における機能解析

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

坂田 博美, 玉置 透, 後藤 順一,
池田 篤, 江川 宏寿, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 89 回日本消化器病学会総会(平成 15 年 4 月 24 ~ 26 日 = さいたま)

クローン病に対する Infliximab の使用経験

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
大泉 弘子, 川村 直之, 斎藤 雅雄

・日本医工学治療学会第 19 回学術大会(平成 15 年 5 月 17, 18 日 = 札幌)

[シンポジウム] テンポラリーブラッドアクセスとしてのダブルルーメンカテーテルの役割と改良

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 堀江 卓, 米川 元樹,
川村 明夫

[シンポジウム] 末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

(シンポジウム)肝不全に対する血液浄化療法

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘, 目黒 順一, 後藤 順一,
池田 篤, 江川 宏寿, 飯田 潤一,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

(シンポジウム)腎移植 high risk 症例に対する immunomodulation とその対策

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 米川 元樹,
川村 明夫

ABI を用いた全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の検討

札幌北榆病院 麻酔科
開成病院

沼澤 理絵, 中尾 康夫
白崎 修一

末梢血幹細胞採取時における Ca 値の変動について

札幌北榆病院

住田 知規, 土濃塚広樹, 阿部 博,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

透析液乾燥剤の使用経験

札幌北榆病院 臨床工学技士科
札幌北榆病院 外科
開成病院 外科

鶴谷 敬之, 土濃塚広樹
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫
高田 尚幸, 大野 正博

第 29 回日本急性肝不全研究会(平成 15 年 5 月 21 日 = 福岡)

急性肝不全に対する血液浄化療法の適応と限界についての検討

札幌北榆病院 外科

目黒 順一, 増子 佳弘, 今村 恵美,
後藤 順一, 江川 宏寿, 池田 篤,
津田 一郎, 飯田 潤一, 堀江 卓,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
米川 元樹, 川村 明夫

第 65 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 15 年 5 月 29 ~ 31 日 = 福岡)

消化管内視鏡検査と剖検による骨髄移植関連血栓性微小血管症 TMA (thrombotic microangiopathy) の検討

札幌北榆病院 消化器科

大泉 弘子, 桂田 武彦, 中井 義仁,
露口 雅子, 川村 直之, 斎藤 雅雄
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 内科

非外科的治療で治療した胃悪性リンパ腫の 4 例

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 中井 義仁,
露口 雅子, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

札幌北榆病院 内科

胃転移をきたした食道癌の 1 例

札幌北榆病院 消化器科

露口 雅子, 桂田 武彦, 中井 義仁,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

術前に内視鏡診断が可能であった小腸腫瘍の2例

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 中井 義仁, 露口 雅子,
川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

・日本麻酔学会第 50 回学術集会(平成 15 年 5 月 29 ~ 31 日 = 横浜)

腎移植レシピエントの周術期循環血液量

札幌北榆病院 麻酔科
開成病院 麻酔科

中尾 康夫, 沼澤 理絵
白崎 修一

・第 103 回日本外科学会定期学術集会(平成 15 年 6 月 4 ~ 6 日 = 札幌)

末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

後腹膜鏡視補助下ドナー腎摘出術の成績

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘, 目黒 順一, 玉置 透,
後藤 順一, 池田 篤, 江川 宏寿,
飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

NF- B 活性阻害剤 pyrrolidine dithiocarbamate (PDTC) の肝虚血再灌流傷害に対する抑制効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所
北里大学学 外科
三愛クリニック

玉置 透, 池田 篤, 川村 明夫
土橋誠一郎, 柿田 章
田中三津子

Rho 特異的 G α ニスクレオチド交換促進因子 ECT2 の細胞回転における機能解析

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

坂田 博美, 玉置 透, 池田 篤,
江川 宏寿, 後藤 順一, 飯田 潤一,
増子 佳弘, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

Heme oxygenase (HO) 活性阻害剤 tin-protoporphyrin IX (SnPP) による肝虚血再灌流傷害抑制の試み

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所
北里大学学 外科
三愛クリニック

池田 篤, 玉置 透, 川村 明夫
内田 泰至, 土橋誠一郎, 柿田 章
田中三津子

・人倫研プロジェクト主催ワークショップ「医学・医療における生体利用の現状と公的規制のあり方」

(平成 15 年 6 月 6 日 = 札幌)

造血幹細胞移植の意義, 現状および倫理的問題点

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

・第2回造血幹細胞移植勉強会(平成15年6月13日=東京)

(講演)造血幹細胞移植の適応を考える-札幌北榆病院の経験から-

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

(パネルディスカッション)初回移植後の再発に対し再移植を施行した血液悪性腫瘍症例の検討

札幌北榆病院 内科

小林 直樹,笠井 正晴

・第45回日本老年医学会(平成15年6月18~20日=名古屋)

当科における55歳以上の血液悪性疾患に対するミニ移植の臨床的検討

北大 血液内科

東梅 友美,田中 淳司,三浦 洋子,
藤澤 文絵,今村 雅寛

北大 第三内科

太田 秀一,豊島 経康,浅香 正博

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

・第39回日本肝癌研究会(平成15年6月19,20日=金沢)

肝腫瘍に凍結手術を併施した2症例の検討

札幌北榆病院 外科

目黒 順一,後藤 順一,江川 宏寿,
池田 篤,飯田 潤一,増子 佳弘,
坂田 博美,堀江 卓,玉置 透,
久木田和丘,米川 元樹,川村 明夫
大泉 弘子,川村 直之,斎藤 雅雄

札幌北榆病院 消化器科

・第48回日本透析医学会学術集会・総会(平成15年6月20~22日=大阪)

(コンセンサスカンファレンス)外科的治療に対するインターベンションの位置付け

札幌北榆病院 外科

久木田和丘,後藤 順一,米川 元樹,
川村 明夫

(シンポジウム)透析患者における末梢血幹細胞を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓,久木田和丘,米川 元樹,
川村 明夫

(シンポジウム)透析患者における胃癌,大腸癌手術症例の検討

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘,久木田和丘,米川 元樹,
川村 明夫

脱送血孔ともに開閉可能なダブルルーメンカテーテルの開発

札幌北榆病院 外科

坂田 博美,久木田和丘,後藤 順一,
江川 宏寿,池田 篤,飯田 潤一,
増子 佳弘,堀江 卓,玉置 透,
目黒 順一,米川 元樹,川村 明夫

保存的に軽快し得た維持透析患者の感染性多発肝嚢胞の2例

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿, 久木田和丘, 後藤 順一,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

糖尿病血液透析患者の血糖コントロール指標は透析膜の違いによる影響を受けるか?

札幌北榆病院 麻酔科

札幌北榆病院 外科

沼澤 理絵, 中尾 康夫
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

末梢血幹細胞移植を施行した維持透析患者の看護

札幌北榆病院 人工臓器治療センター

札幌北榆病院 外科

木村 剛, 小出有希子, 大西 史浩,
阿部 浩, 栗坪 睦子
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

透析患者の地域受け入れ施設・グループホームの現状を調査して・

札幌北榆病院 療養情報センター

札幌北榆病院 外科

浅野 苑子, 岩田 和江, 山田美砂子,
山崎奈美恵
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

第12回腎不全外科研究会(平成15年7月4,5日=高松)

DICを併発した維持透析患者の十二指腸腫瘍の1例

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

腎移植レシーピエントの周術期循環血液量

札幌北榆病院 麻酔科

札幌北榆病院 外科

開成病院 麻酔科

中尾 康夫, 沼澤 理絵
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫
白崎 修一

救命し得た透析患者 SMA 血栓症の1例

札幌北榆病院 外科

札幌北榆病院 麻酔科

増子 佳弘, 久木田和丘, 堀江 卓,
坂田 博美, 玉置 透, 目黒 順一,
米川 元樹, 川村 明夫
中尾 康夫

内シャントトラブルに対する外科治療法の検討

札幌北榆病院 外科

旭川厚生病院 外科

後藤 順一, 久木田和丘, 米川 元樹,
川村 明夫
高橋 昌宏

・第 58 回日本消化器外科学会総会(平成 15 年 7 月 16~18 日 = 東京)

急性腹症における開腹,非開腹を決断した因子は何か?

札幌北榆病院 外科

増子 佳弘,堀江 卓,坂田 博美,
玉置 透,久木田和丘,目黒 順一,
米川 元樹,川村 明夫

・第 65 回日本血液学会総会・第 45 回日本臨床血液学会総会(平成 15 年 8 月 28~31 日 = 大阪)

MDR-1 遺伝子導入による STI571 耐性化機序の検討

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩,重松 明男,米積 昌克,
今井 陽俊,小林 直樹,木山 善雄,
比嘉 敏夫,笠井 正晴

同種末梢血幹細胞(PBSCT)と骨髄移植(BMT)の後方視的検討-単施設解析-

札幌北榆病院 内科

今井 陽俊,重松 明男,米積 昌克,
小林 直樹,小笠原正浩,木山 善雄,
比嘉 敏夫,笠井 正晴

STI571 耐性化に対する多剤耐性遺伝子の関与と耐性克服

札幌北榆病院 内科

重松 明男,米積 昌克,今井 陽俊,
小笠原正浩,小林 直樹,木山 善雄,
比嘉 敏夫,笠井 正晴

成人 ALL とリンパ芽球性リンパ腫(LBL)に対する G-CSF 併用地固め療法の第 II 相試験:JCOG9004

JCOG リンパ腫グループ

有馬 文統,飛内 賢正,竹山 邦彦,
三国 主税,花田 修一,笠井 正晴,
福田 治彦,白川 茂,下山 正徳,
堀田 知光

・第 7 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会(平成 15 年 9 月 5,6 日 = 札幌)

気腫性肺嚢胞症に合併し,術前診断し得た肺癌の二例の検討

札幌北榆病院 外科

飯田 潤一,目黒 順一,米川 元樹,
川村 明夫

札幌北榆病院 呼吸器科

本田 哲史

・第 14 回日本急性血液浄化学会学術集会(平成 15 年 9 月 11,12 日 = 横浜)

[特別講演]ICUにおける血液浄化システムの構築と維持

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

[ワークショップ]腎移植 high risk 症例に対する周術期の血液浄化療法

札幌北榆病院 外科

米川 元樹

・第 23 回日本アフェレシス学会学術大会(平成 15 年 10 月 3, 4 日 = 東京)

(ミニシンポジウム)術後肝不全に対するアフェレシスの効果と限界

札幌北榆病院 外科

目黒 順一

(ミニシンポジウム)腎移植 high risk 症例に対する apheresis 治療

札幌北榆病院 外科

玉置 透, 池田 篤, 米川 元樹,

川村 明夫

透析患者に対する末梢血幹細胞採取時における Ca 製剤の至適投与量および採取クルの検討

札幌北榆病院 臨床工学技士

土濃塚広樹

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 久木田和丘, 米川 元樹,

川村 明夫

・第 45 回日本消化器病学会大会(平成 15 年 10 月 15 ~ 17 日 = 大阪)

当院における潰瘍性大腸炎 (UC) に対する nonwoven polyester filter (Finecell) を用いた白血球除去療法 (LCAP) の治療成績

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 露口 雅子,

大泉 弘子, 斎藤 雅雄

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 川村 明夫

潰瘍性大腸炎 (UC) に対する infliximab の使用経験

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 露口 雅子, 川村 直之,

大泉 弘子, 斎藤 雅雄

白血球除去療法 (LCAP) 単独で寛解維持が可能であった潰瘍性大腸炎 (UC) の 2 症例

札幌北榆病院 消化器科

露口 雅子, 斎藤 雅雄, 桂田 武彦,

川村 直之, 大泉 弘子

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 川村 明夫

・第 66 回日本消化器内視鏡学会総会(平成 15 年 10 月 15 ~ 18 日 = 大阪)

内視鏡的粘膜切除術 (EMR) 時施行した局注で消失したと考えられた大腸ポリープの一例

札幌北榆病院 消化器科

大泉 弘子, 桂田 武彦, 露口 雅子,

川村 直之, 斎藤 雅雄

・第 41 回日本癌治療学会総会(平成 15 年 10 月 22 ~ 24 日 = 札幌)

CML 治療における Glivec の使用経験

札幌北榆病院 内科

木山 善雄, 重松 明男, 米積 昌克,

今井 陽俊, 小林 直樹, 小笠原正浩,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

血液悪性腫瘍に対する複数回移植症例の検討

札幌北榆病院 内科

米積 昌克, 重松 明男, 今井 陽俊,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

比嘉敏夫, 笠井 正晴

・日本臨床麻酔学会第23回大会(平成15年10月23~25日=下関)

透析症例の全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の検討

札幌北榆病院 麻酔科

開成病院 麻酔科

沼澤 理絵, 中尾 康夫

白崎 修一

・第7回アクセス研究会(平成15年10月26日=東京)

胸骨斜切開を併用した経皮的血管形成術

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 米川 元樹, 今村 恵美,

江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,

飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,

玉置 透, 目黒 順一, 川村 明夫

・第39回日本移植学会総会(平成15年10月26~28日=大阪)

cGMP投与によるラット肝虚血再灌流傷害に対する効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

三愛クリニック

北里大学 外科

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,

太田 美沙, 宮下麻美子, 川村 明夫

田中三津子

柿田 章

肝虚血再灌流傷害に対するカルニチンの効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

昭和大学 一般消化器外科

江川 宏寿, 玉置 透, 池田 篤,

坂田 博美, 太田 美沙, 宮下麻美子,

川村 明夫

草野 満夫

・第41回日本人工臓器学会大会(平成15年10月30~11月1日=仙台)

ブラッドアクセスラブル頻発例に対するアフレスス治療の試み

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 久木田和丘, 江川 宏寿,

今村 恵美, 池田 篤, 飯田 潤一,

津田 一郎, 坂田 博美, 堀江 卓,

玉置 透, 目黒 順一, 川村 明夫

カッピングバルーンを用いた内シャント狭窄の治療

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 今村 恵美, 江川 宏寿,

池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,

堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

末梢血幹細胞(CD34陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,

池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,

坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,

目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 65 回日本臨床外科学会総会(平成 15 年 11 月 13~15 日 = 福岡)

術後, 腹壁離開に至る腸閉塞を発症した腸間膜脂肪織炎に対してステロイド投与が著効した 1 例

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿

・第 6 回腎と筋・エネルギー研究会(平成 15 年 11 月 22, 23 日 = 京都)

維持透析症例における腹部大動脈石灰化の検討

札幌北榆病院 外科

米川 元樹, 久木田和丘, 今村 恵美,
江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
飯田 潤一, 堀江 卓, 坂田 博美,
玉置 透, 目黒 順一, 川村 明夫

・第 30 回日本低温医学会総会(平成 15 年 11 月 28, 29 日 = 札幌)

(ワークショップ) ラット肝凍結療法後の組織免疫学的検討

札幌北榆病院 外科

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,
今村 恵美, 飯田 潤一, 津田 一郎,
坂田 博美, 堀江 卓, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
柿田 章

北里大学 外科

(シンポジウム) 末梢血幹細胞移植の今後の方向

札幌北榆病院 血液内科

小林 直樹

(ワークショップ) 当院における自己血保存と使用状況について

札幌北榆病院 血液内科・輸血部

木山 善雄, 笠井 正晴

(シンポジウム) 肝細胞増殖因子 (Hepatocyte Growth Factor / Scatter Factor : HGF/SF) の肝再生医療への応用

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

坂田 博美, 玉置 透, 川村 明夫

(ワークショップ) 心房性ナトリウム利尿ペプチドおよび cyclic GMP 投与によるラット肝虚血再灌流傷害に対する抑制効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,
川村 明夫

北里大学 外科

柿田 章

(イブニングシンポジウム) わが国の臓器提供の現況と課題

(社)日本臓器移植ネットワーク

芦刈淳太郎, 大宮かおり, 菊地 耕三,
小中 節子, 玉置 透, 浅野 泰,
野本亀久雄

(イブニングシンポジウム) 北海道の腎移植システムと現状

(社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部

大宮かおり, 芦刈淳太郎

(社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部北海道連絡所

古山亜紀子, 玉置 透

第 26 回日本造血細胞移植学会総会(平成 15 年 12 月 19, 20 日 = 横浜)

(ワークショップ)ケモカイン刺激による成熟樹状細胞の抗原提示能の増強と樹状細胞療法への応用

札幌北榆病院 血液内科

小笠原正浩, 重松 明男, 米積 昌克,
今井 陽俊, 小林 直樹, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

初回移植後の再発に対し再移植を行った血液悪性腫瘍症例の検討

札幌北榆病院 血液内科

小林 直樹, 重松 明男, 米積 昌克,
今井 陽俊, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉敏夫, 笠井 正晴

同種血液幹細胞移植を行った成人T細胞性白血病3症例の検討

札幌北榆病院 血液内科

米積 昌克, 重松 明男, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

造血幹細胞移植における食事管理の検討

札幌北榆病院 造血細胞移植センター

札幌北榆病院 看護部

札幌北榆病院 栄養課

永井 裕子, 草島 千晶, 米田さやか,
千葉百合子, 村重八千代, 安達 るり
栗坪 睦子
定 恵利

HLA 一致同胞間骨髄移植後の急性移植片対宿主病 (GVHD) 発症と移植成績との関係

日本造血細胞移植学会ワーキンググループ6

神田 善伸, 伊豆津宏二, 平井 久丸,
坂牧 壽, 井関 徹, 小寺良 尚,
岡本真一郎, 三井 秀紀, 岩戸 康治,
平林 憲之, 古川 達雄, 丸田 壱郎,
笠井 正晴, 熱田 由子, 浜島 信之,
平岡 諦, 河 敬世

地方会

平成 15 年

・第 23 回札幌市病院学会(平成 15 年 2 月 1 日 = 札幌)

リンパ腫に対するリツキサン・CHOP 療法クリニカルパス作成について

札幌北榆病院

波岸 舞, 柳谷 恭子, 村重八千代,
鈴木 真澄, 栗坪 睦子

輸血副作用症状と発症患者の背景

札幌北榆病院

禿 蘭子, 千野 瞳, 小矢奈々美,
豊澤 悠子, 佐藤 壮, 三浦 玲子,
木山 善雄, 笠井 正晴

移動型撮影装置使用時の病室個室化に伴う効果

札幌北榆病院 放射線科

空閑 大輔, 西川 謙一, 水野 篤司,
富沢 智, 中山 大志, 石谷 安清,
中明 鉄朗, 濱田 敏克

・第 78 回北海道外科学会(平成 15 年 2 月 2 日 = 札幌)

末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 後藤 順一, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

後腹膜鏡視補助下ドナー腎摘出術

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿, 目黒 順一, 後藤 順一,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・青森県立中央病院「造血幹細胞移植に関する教育講演会」(平成 15 年 2 月 14 日 = 青森)

(講演)造血幹細胞移植医療について

札幌北榆病院 内科

笠井 正晴

・第 14 回 Clinical Oncology Forum(平成 15 年 2 月 15 日 = 札幌)

STI571 耐性機序の検討

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第 226 回日本内科学会北海道地方会(平成 15 年 2 月 15 日 = 札幌)

Cladribine の単剤投与により、長期寛解を維持している非ホジキンリンパ腫 (NHL) の 1 例

札幌北榆病院 内科

吉田 知恵, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

カルベジロールが著効したダウノルビシンによる薬剤性心筋症の一例

札幌社会保険総合病院 循環器内科

札幌北榆病院 内科

尾形 仁子, 山口 康一, 堀田 大介
笠井 正晴

・第 28 回札幌市医師会医学会(平成 15 年 2 月 16 日 = 札幌)

ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP) の効果

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

池田 篤, 玉置 透, 江川 宏寿,
増子 佳弘, 坂田 博美, 宮下麻美子,
川村 明夫

ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤による抗白血病免疫の誘導

札幌北榆病院 内科

小笠原正浩, 小川 貴史, 今井 陽俊,
小林 直樹, 木山 善雄, 比嘉 敏夫,
笠井 正晴

・第 39 回北海道血管造影・Interventional Radiology 研究会(平成 15 年 2 月 22 日 = 札幌)

内シャント狭窄に対する経皮的血管形成術後腔内照射の検討

札幌北榆病院 外科

国立札幌病院 放射線科

後藤 順一, 久木田和丘, 江川 宏寿,
池田 篤, 飯田 潤一, 増子 佳弘,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
西山 典明, 西尾 正道

・第 15 回北海道癌化学療法研究会学術講演会(平成 15 年 3 月 8 日 = 札幌)

[シンポジウム] 血液疾患における分子標的療法 グリベック・リツキサン

札幌北榆病院 内科

木山 善雄

・第 38 回日本血液学会北海道地方会(平成 15 年 4 月 26 日 = 札幌)

ホジキン病発症 4 年後、肝硬変合併非ホジキンリンパ腫に対してリツキサンが有効であった症例

札幌北榆病院 内科

重松 明男, 米積 昌克, 今井 陽俊,
小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第 65 回腸疾患研究会(平成 15 年 5 月 10 日 = 札幌)
 抗 TNF のモノクローナル抗体が著効した難治性重症型潰瘍性大腸炎の 1 例
 札幌北榆病院 消化器科
 山本 桂子, 桂田 武彦, 露口 雅子,
 川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

- ・第 63 回北海道透析療法学会(平成 15 年 5 月 25 日 = 札幌)
 透析患者における末梢血幹細胞を用いた血管再生治療
 札幌北榆病院 外科
 堀江 卓, 今村 恵美, 江川 宏寿,
 池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
 坂田 博美, 玉置 透, 久木田和丘,
 目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- 右外腸骨静脈狭窄に対して, スtent留置を行った長期透析患者の一症例
 札幌北榆病院 外科
 坂田 博美, 久木田和丘, 今村 恵美,
 江川 宏寿, 池田 篤, 津田 一郎,
 飯田 潤一, 堀江 卓, 玉置 透,
 目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

- 透析装置の変更が自己管理に功を奏した一例について
 札幌北榆病院 人工臓器治療センター
 伊藤 薫, 阿部 博, 栗坪 睦子,
 久木田和丘, 川村 明夫

- ・第 14 回北海道造血細胞移植研究会(平成 15 年 5 月 31 日 = 札幌)
 Ph⁺陽性 ALL に対する同種血液幹細胞移植の検討
 札幌北榆病院 内科
 米積 昌克, 重松 明男, 今井 陽俊,
 小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第 227 回日本内科学会北海道地方会(平成 15 年 6 月 7 日 = 札幌)
 腎不全初発 IgD 型多発性骨髄腫の一例
 札幌北榆病院 内科
 重松 明男, 米積 昌克, 今井 陽俊,
 小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,
 比嘉 敏夫, 笠井 正晴

- ・第 92 回日本消化器病学会北海道支部例会(平成 15 年 6 月 7 日 = 札幌)
 Infliximab が奏効した難治性外瘻を有するクローン病の一例
 札幌北榆病院 消化器科
 山本 桂子, 桂田 武彦, 露口 雅子,
 川村 直之, 大泉 弘子, 斎藤 雅雄

- ・輸血療法検討会(平成 15 年 7 月 4, 5 日 = 札幌)
 ASO とアフェレシス
 札幌北榆病院 外科
 堀江 卓

・第 14 回北海道腹膜透析研究会(平成 15 年 8 月 2 日 = 札幌)

腹膜部位別による病理組織変化の違い

札幌北榆病院 外科

久木田和丘, 今村 恵美, 江川 宏寿,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
堀江 卓, 坂田 博美, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
平野 宏
工藤 靖夫

岩藤クリニック腎臓病医療センター
南一条病院

・第 12 回北海道透析骨関節障害談話会(平成 15 年 9 月 6 日 = 札幌)

遺残あるいは再発上皮小体機能亢進症とビタミンDパルス療法

札幌北榆病院 外科

堀江 卓, 久木田和丘, 加納 剛史,
今村 恵美, 池田 篤, 江川 宏寿,
津田 一郎, 飯田 潤一, 坂田 博美,
玉置 透, 目黒 順一, 米川 元樹,
川村 明夫

塩酸セベラマー投与において PTH 分泌は抑制されるか

札幌北榆病院 外科

津田 一郎, 久木田和丘, 今村 恵美,
池田 篤, 江川 宏寿, 飯田 潤一,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 93 回日本消化器病学会北海道支部例会(平成 15 年 9 月 6 日 = 札幌)

血管炎を基礎に発症した虚血性腸炎にて左半結腸切除術を施行した一例

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 露口 雅子,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄
目黒 順一, 米川 元樹, 川村 明夫
村岡 俊二

札幌北榆病院 外科

札幌厚生病院 病理部

術後腸閉塞を発症した腸間膜脂肪織炎に対し, ステロイド投与が著効した1例

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿, 目黒 順一, 今村 恵美,
池田 篤, 津田 一郎, 飯田 潤一,
坂田 博美, 堀江 卓, 玉置 透,
久木田和丘, 米川 元樹, 川村 明夫

・第 87 回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会(平成 15 年 9 月 7 日 = 札幌)

抗 TNF- α モノクローナル抗体が著効した難治性重症型潰瘍性大腸炎の1例

札幌北榆病院 消化器科

桂田 武彦, 露口 雅子, 川村 直之,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄

[シンポジウム] クロウン病に対する Infliximab の使用経験

札幌北榆病院 消化器科

川村 直之, 桂田 武彦, 露口 雅子,
大泉 弘子, 斎藤 雅雄

・日本麻酔科学会北海道・東北支部第 51 回北海道麻酔科学会(平成 15 年 9 月 20 日 = 札幌)

維持透析患者予定手術で術中緊急透析を行わざるを得なかった一例

札幌北榆病院 麻酔科

中尾 康夫, 沼澤 理絵

開成病院 麻酔科

白崎 修一

・第 83 回北海道医学大会(平成 15 年 9 月 26, 27 日 = 札幌)

(各科トピックス)細胞治療による四肢の再生

札幌北榆病院 外科

川村 明夫

・日本代替・相補・伝統医療連合会議 第 5 回北海道支部会(平成 15 年 9 月 27 日 = 札幌)

(シンポジウム)歯からみた健康

札幌北榆病院 歯科

今井 信

・第 45 回日本臨床血液学会北海道地方会(平成 15 年 10 月 4 日 = 札幌)

自家移植後の再発に対し salvage として同種移植を施行した AML 症例の検討

札幌北榆病院 内科

重松 明男, 米積 昌克, 今井 陽俊,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

細胞内抗原の検索による Biphenotypic acute leukemia (BAL) の同定

札幌北榆病院 臨床検査科

佐藤 壮, 禿 蘭子, 南坂 雅美,

千野 瞳, 小矢奈々美, 三浦 玲子

札幌北榆病院 内科

重松 明男, 米積 昌克, 今井 陽俊,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・日本集中治療医学会第 12 回北海道地方会(平成 15 年 10 月 4 日 = 札幌)

当院独自の鎮静評価基準に対するスコアリング統一化の試み

札幌北榆病院 集中治療室

星野わかな, 長倉 竜也, 清水 美香,

相原 雅永

札幌北榆病院 看護部

栗坪 睦子

札幌北榆病院 麻酔科

沼澤 理絵, 中尾 康夫

・第 47 回日本輸血学会北海道支部例会(平成 15 年 10 月 18 日 = 札幌)

骨髄非破壊的前処置による 2 度の非血縁者間臍帯血移植後 70 日目に自己造血が回復した AML の 1 例

札幌北榆病院 内科

重松 明男, 米積 昌克, 今井 陽俊,

小林 直樹, 小笠原正浩, 木山 善雄,

比嘉 敏夫, 笠井 正晴

・第 64 回北海道透析療法学会(平成 15 年 10 月 19 日 = 札幌)

〔シンポジウム〕当院における高齢者透析患者に対する血液浄化法の選択

札幌北榆病院 外科

坂田 博美、久木田和丘、今村 恵美、
江川 宏寿、池田 篤、津田 一郎、
飯田 潤一、堀江 卓、玉置 透、
目黒 順一、米川 元樹、川村 明夫

プリセプター制度による新人教育の試み

札幌北榆病院 人工臓器治療センター 臨床工学技士

那須野優美、小塚麻紀、土濃塚広樹

札幌北榆病院 看護部

阿部 博

札幌北榆病院 外科

久木田和丘

第2回所沢・入間・佐山(TIS)腎不全セミナー(平成15年10月21日=川越)

〔講演〕本邦における腎移植の実際

札幌北榆病院

玉置 透

第19回北海道腎移植談話会(平成15年11月1日=札幌)

腹部手術を繰り返した腎再移植症例

札幌北榆病院 外科

江川 宏寿、玉置 透、今村 恵美、
池田 篤、津田 一郎、飯田 潤一、
坂田 博美、堀江 卓、久木田和丘、
目黒 順一、米川 元樹、川村 明夫

子宮頸がん(CIS)術後に肺肝再発をきたした生体腎移植症例

札幌北榆病院 外科

池田 篤、玉置 透、江川 宏寿、
今村 恵美、飯田 潤一、津田 一郎、
坂田 博美、堀江 卓、久木田和丘、
目黒 順一、米川 元樹、川村 明夫

〔シンポジウム〕Basiliximabを併用した腎移植症例の検討-末梢血リンパ球サブセットの動向を中心に-

札幌北榆病院 検査科

佐藤 壮

札幌北榆病院 外科

玉置 透、今村 恵美、江川 宏寿、
池田 篤、津田 一郎、飯田 潤一、
坂田 博美、堀江 卓、久木田和丘、
目黒 順一、米川 元樹、川村 明夫

北海道における献腎移植希望登録者の状況

(社)日本臓器移植ネットワーク東日本支部北海道連絡所

古山亜紀子、大宮かおり、芦刈淳太郎、
玉置 透

- ・北海道癌談話会秋季シンポジウム(平成 15 年 11 月 1 日 = 札幌)
 (シンポジウム)STI571 の薬剤耐性機序の解明とその克服
 札幌北榆病院 内科 小笠原正浩

- ・第 229 回日本内科学会北海道地方会(平成 15 年 11 月 8 日 = 札幌)
 輸血関連急性肺障害 (TRALI) を発症した胃癌合併骨髄異形成症候群の一例
 札幌北榆病院 内科 重松 明男,米積 昌克,今井 陽俊,
 小林 直樹,小笠原正浩,木山 善雄,
 比嘉 敏夫,笠井 正晴

- ・第 23 回日本アフェシス学会北海道地方会(平成 15 年 11 月 8 日 = 札幌)
 末梢血幹細胞(CD34 陽性細胞)を用いた血管再生治療
 札幌北榆病院 外科 堀江 卓,今村 恵美,江川 宏寿,
 池田 篤,津田 一郎,飯田 潤一,
 坂田 博美,玉置 透,久木田和丘,
 目黒 順一,米川 元樹,川村 明夫

- 当院における PBSC 採取の現状
 札幌北榆病院 検査科 佐藤 壮,禿 蘭子,小矢奈々美
 札幌北榆病院 人工臓器治療センター 土濃塚広樹
 札幌北榆病院 血液内科 小笠原正浩,比嘉 敏夫,笠井 正晴
 札幌北榆病院 外科 堀江 卓,米川 元樹,川村 明夫

- ・再生つばさの会北海道支部勉強会(平成 15 年 11 月 15 日 = 札幌)
 (講演)検査データの見方
 札幌北榆病院 内科 小林 直樹

- ・第 2 回中国四国透析シャントインターベーション研究会(平成 15 年 11 月 22 日 = 岡山)
 (特別講演)経皮的血管形成術 (PTA) 後の腔内照射における開存率向上効果
 札幌北榆病院 外科 久木田和丘

- ・第 9 回北海道レジデントカンファレンス(平成 15 年 11 月 29 日 = 札幌)
 輸血関連急性肺傷害 (TRALI) を発症した腎癌合併骨髄異形成症候群の 1 例
 札幌北榆病院 内科 重松 明男,米積 昌克,今井 陽俊,
 小林 直樹,小笠原正浩,木山 善雄,
 比嘉 敏夫,笠井 正晴

- ・第 19 回神奈川県透析施設連絡協議会総会(平成 15 年 11 月 30 日 = 横浜)
 (特別講演)細胞治療最前線-虚血四肢の切断を防止できる-
 札幌北榆病院 川村 明夫

講演会・研究会報告

・第 11 回北榆セミナー(平成 15 年 1 月 24 日)

特別講演「成人T細胞白血病(ATL)治療の最前線」

財団法人慈愛会 今村病院分院

宇都宮 與

・日本代替・相補・伝統医療連合会議第5回北海道支部会(平成 15 年 9 月 27 日)

特別講演「高齢者の健康について」

北海道大学大学院医学研究科予防医学講座

玉城 英彦

シンポジウム「食と健康」

1. 医食同源

藤女子大学人間生活学部

藤井 義博

2. 薬食同源

北海道薬剤師会

日沼 義一

3. 生活習慣病と食生活 北海道循環器病院栄養科

佐々木正子

4. 歯からみた健康

札幌北榆病院歯科

今井 信

・第 12 回北榆セミナー(平成 15 年 10 月 10 日)

特別講演「Hopes and disappointment in cancer therapy」

インド・ジャワラルネル大学

P.N. Srivastava

・第 13 回北榆セミナー(平成 15 年 10 月 24 日)

特別講演「血液および固形腫瘍に対するミニトランスプラントの現状と今後の展望」

Univ. of Texas, M.D. Anderson Cancer Center

上野 直人

・K-ネットカンファレンス(平成 15 年 12 月 4 日)

講演「透析骨病変の新しい管理方針」

神戸大学腎臓内科・代謝機能疾患治療部

深川 雅史

各部門報告

外科

平成 15 年度の外科の活動概要について報告します。

まず手術件数ですが、年々症例数が伸びており、全身麻酔手術 800 件余り、ブラッドアクセス作製術も 300 件余り、虚血四肢に対する自己末梢血幹細胞移植術は、更に症例が増えて約 65 例(平成 16 年 6 月現在)になっています。全国的に見ても当院は大変症例数が多いため、東京はもとより九州からも見学者が訪れています。この分野のオピニオンリーダーとして、一層経験を重ねたいと思います。

次に、昨年度の学会活動ですが、学会発表では、国際学会 2 件、全国学会 37 件、地方会 17 件でした。また発表論文では、英文 1 題、邦文 9 題でした。

一方、主催学会では、平成 15 年 6 月に日本医工学治療学会第 19 回学術大会を、同 11 月に第 30 回日本低温医学会総会を担当し、何れも盛会かつ好評のうちに無事終了しました。御協力頂いた関係各位にこの場を借りて感謝申し上げます。平成 16 年度もいくつかの学会を主催しますが、さらなる御支援をお願いいたします。

今年度から新しい医師研修制度が走りだしましたが、優秀な医師を育てるために、皆で頑張りたいと思います。

尚、勉強のことばかり述べましたが、歓送迎会、各種宴会、焼肉パーティー、年末の餅つき等、しっかりと遊びも忘れてはいいことを申し添えます。

(副院長 外科 目黒順一)

内科

日本内科学会の教育関連病院になっています。平成 15 年度から管理型卒後臨床研修病院として研修医の研修施設となっており、また北海道大学病院の協力型研修病院にもなっています。一般内科ではプライマリケアや健康相談やどこの専門科にかかってよいのかわからない時に受診します。病気としては高血圧などの循環器疾患、糖尿病、また甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、橋本病などの甲状腺疾患、リウマチや全身性エリテマトーデスなどの自己免疫病や腎不全などの広範囲にわたる病気を中心に診察します。流行期には呼吸器科と一緒に風邪やインフルエンザなどの治療もします。各専門科と緊密な連携をとって診断、治療に当たります。

(内科部長 木山善雄)

血液内科

急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、急性リンパ性白血病、リンパ腫、骨髄腫などの血液疾患の診断、治療を行っています。抗がん剤治療や造血細胞移植(骨髄移植)を積極的に行い、北海道内各地より多くの患者さんが紹介されてみえられています。完全個室医療で病床数も 100 床以上あり、全国の臨床研究の共同施設となっており日本成人白血病研究グループや日本臨床腫瘍グループに属し最

新の先端治療を患者さんに提供しています。無菌室も25床あり感染対策も他病院に比較して数段優れています。造血細胞移植療法も年間約40～50例ほど行い、現在まで約450例以上の移植を行いよい成績を治めています。また日本血液学会の認定病院で血液専門医のための後期血液研修制度があります。また輸血学会認定施設であり、骨髄バンクや臍帯血移植の認定施設にもなっています。ベテラン、中堅の経験豊富なドクターが多く、診療を担当しています。

(副院長 血液内科 笠井正晴)

消化器科

当科では、ほとんどの消化器疾患に対応できるようになっており、特に内視鏡機器およびスタッフの充実をはかっている。現在消化器科として5名の常勤医があり、日本内視鏡学会指導医もおり研修機関ともなっている。また、内視鏡室のスタッフとして看護師5名、内視鏡学会認定技師3名と他に3名が従事しており、日常の内視鏡検査と、緊急時(主に吐・下血)にも速やかに対処を行っている。

平成15年の検査については、胃内視鏡検査3,000例、大腸内視鏡検査2,000例、超音波検査2,000例ほど施行している。他に胃・大腸ポリペクトミー、EMR 400例、ERCP等150例、食道静脈瘤治療60例、内視鏡的胆道系治療40例等を行っている。

学会活動では当院は日本消化器病学会、日本消化器内視鏡学会、日本大腸肛門病学会の指導認定施設でもあり、積極的に学会発表しており、平成15年には国際学会1題の他、全国学会で9題発表している。

また、当科ではHelicobacter pylori除菌療法や炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病)の難治例に対し、白血球除去療法、抗TNF抗体(Infliximab)、免疫抑制剤による治療など積極的に行い、その成果を挙げているところである。

(消化器科部長 斎藤雅雄)

呼吸器科

平成11年に開設された呼吸器科は医師1名で午前の外来診療を主としております。

呼吸器科の検査としては一般的なレントゲン検査の他に、肺CT検査は他院で類を見ない三次元画像診断ができます。放射性同位元素を用いた肺血流シンチグラムのみならず診断機器の増設で血管造影も可能になりました。呼吸機能検査はもとより、24時間経皮酸素測定も可能となりました。気管支内視鏡による早期癌の治療も始めました。胸腔鏡は胸水疾患の診断ばかりではなく、自然気胸の内視鏡治療では北海道のセンターとして認められています。

気管支喘息の治療にはピークフローメーターを用いたステロイドの吸入療法を取り入れています。また肺結核の後遺症や慢性肺気腫その他の慢性呼吸不全の患者さんに対してのみならず透析患者さんにも在宅酸素療法を始め、在宅医療を充実しました。死亡率1位の肺癌に対しては胸腔鏡手術から開胸手術、化学療法や癌性胸膜炎に対する温熱療法、放射線療法など集学的治療が可能です。

学会活動としては日本気胸・嚢胞性肺疾患学会理事、日本内視鏡外科学会評議員、日本内科学会認定医、日本呼吸器学会指導医・専門医、日本気管支学会・気管支鏡指導医、北海道内視鏡外科研

究会世話人をしております。「自然気胸治療ガイドライン」編集委員会の委員長として日本気胸・嚢胞性肺疾患学会のホームページに「自然気胸治療ガイドライン」を掲載しました。

札幌東呼吸器談話会には毎月参加しており、病・医院間の連携も良くなってきました。

外来診療では職業病であるじん肺に力を注いできた甲斐があり「じん肺患者交友会」が組織され当院で患者・家族の交流会が開催され、道内各地で通院している患者さん達も多数参加されました。

入院診療においては血液内科・消化器科の先生のみならず、手術時には外科・麻酔科の先生方のご支援いただきこの紙面を借りてお礼申し上げます。

(呼吸器科部長 本田哲史)

整形外科

平成15年度も前年度同様に、膠原病・血液疾患の治療に伴う骨壊死や透析患者の骨関節・神経障害等の当院の特徴ある疾患に対し辛抱強く治療を行っています。また、整形外科一般、さらに股関節症の治療に対しても積極的に行っています。股関節症では臼蓋形成術4例、人工関節置換術12例、再置換術4例と人工関節の割合が増えてきています。以前に行っていた大腿骨の骨切り術は選択されることが少なくなってきています。外傷では、高齢者の骨折に対して手術・リハビリを工夫して、入院日数の制限と厳しい戦いを続けております。

(整形外科部長 東 輝彦)

麻酔科

麻酔科は手術室での全身麻酔管理を主な業務としています。麻酔科管理手術件数は、年間約650件程度で数年間を経緯してきましたが、平成14年末に病棟全室個室化から全手術件数および麻酔科管理手術件数が大幅に増加しました。平成15年の年間手術件数は1369件で其の内、麻酔科管理手術件数は808件に上りました。これらの麻酔科管理手術を、常勤麻酔科医2名と北榆会開成病院から応援で対応しておりました。大学から2年目の研修医が3ヶ月間麻酔科研修し、気管内挿管・末梢および中心静脈確保の手技を取得して他科研修に移りました。わずか3ヶ月間ですが麻酔科にとって貴重な戦力となっております。

学会発表では全国学会3件・研究会1件・地方会1件の発表を行っております。メインテーマである透析患者の麻酔についてここ5年間ほど継続的に学会発表をおこなっております。安全確実な周術期管理を目指し、日々の麻酔を施行しております。

(麻酔科部長 中尾康夫)

人工臓器治療センター(AOC)

AOCではベッドサイドコンソールをAOC西72床、AOC東14床、ICU4床計90床稼働させ、急性および慢性の血液浄化を行っている。一部開院時より使用していたコンソールを新しくした。血液濾過透析も整備し現在プッシュアンドプルが2台、オンラインが5台となった。年間の慢性血液透析数は

44,000 回を超えた。急性期血液浄化としては重症の肝疾患、急性腎不全、慢性疾患としてはリウマチ、膠原病、炎症性消化器疾患等に対して各種血液浄化あるいはアフエーシスを行ってきた。この内容として血漿冷却濾過が 19 回、白血球除去 633 回等が挙げられる。また閉塞性動脈硬化症に対する血管再生治療症例も飛躍的に増加し、末梢血幹細胞採取は 96 回に及んだ。

学会活動でも例年通り日本人工臓器学会、日本アフエーシス学会、日本透析医学会ほか全国学会および多数の地方会に積極的に参加した。以前当院川村理事長が大会長を務めた日本医工学治療学会は今回米川院長を大会長として平成 16 年 5 月 17 日(金)～18 日(日)に開催され、病院全体をあげて参画した。全国学会参加は医師のみではなく、臨床工学技士、看護師も現場のあるいは実験での成果を多数報告した。

今後とも病院、研究所全体として新しい技術の導入、確保、開発に努める必要がある。

(人工臓器治療センター長 久木田和丘)

小児科

小児科は、常勤一名、非常勤一名で診療にあたっています。急性疾患の診断治療、予防接種・乳児健診などの健康管理、喘息・アレルギー関連疾患やその他の長期管理を要する患者さんを外来中心に診ています。開設以来、ワクチン接種・健診は、体調のよい時を逃さず対応できるように予約制をとらず、月～金曜日と土曜日の午前中も実施する体制を続けています(インフルエンザワクチンは予約が必要です)。小児科は守備範囲が各分野にわたるので、循環器・神経・内分泌・代謝・血液等、北大小児科の各診療班、他科も含めて関連病院の先生に大変お世話になっております。腎臓については、学校検尿異常や、腎疾患疑いの患者さんなどのご紹介をいただき感謝しております。北大腎臓班と連絡を密に診療しております。入院は主に急性疾患への対応となりますが、全室個室なので隔離を要する患者さんにも迅速な対応ができます。

疾患の適切な診療とわかりやすい説明を常に心がけ、健康な子供たちを守る保健活動の充実にも、さらにスタッフと共に努力していきます。

(小児科医長 安田一恵)

歯科

歯科は、外来診療を中心に病棟往診など、う歯、歯周病治療、入れ歯やブリッジといった修復治療を行っております。歯科医師 1 名、歯科衛生士 2 名、受付 1 名の体制です。平成 15 年 10 月より常勤となり、入院患者さんや外来患者さんの QOL 向上のため、外科および内科のドクターに連携していただきながら日々診療をしています。北榆病院の特色として、移植治療が多く免疫抑制などから歯科へ対応の要望が多く少しでも患者さんの負担を軽くし、術前・術中・術後の口腔環境をよくするために微力ながら尽力していきたいと思っております。また、入院患者さんの口腔ケアにも歯科が携っており、看護部との連携で入院中の患者さんの口腔内環境を改善していくことも、歯科の命題だと思っております。

最後に歯科は現在、保存療法や歯周病治療技術の発達により、入れ歯になる人が減ってきていますが、まだまだ、う歯や歯周病にならないための予防治療には関心が低いようです。当歯科でも、予防治

療を行っておりますので、是非ご来院していただきたいとこの場を借りて申し上げたいと思います。

(歯科 佐伯典彦)

人工臓器・移植・遺伝子治療研究所

平成8年に現在の研究所が開設されてから早いものでもう6年の歳月が流れようとしています。すでにご報告してきましたが、当研究所は大きく二つの研究室に分けられ、臨床検査室と密接な関係を保ちながら様々な研究課題に取り組んでいます。

動物実験室では主に外科系の研究課題が行われてきました。人工臓器研究の一環として、「血液透析用穿刺型ブラッドアクセスの開発」はビ・グル犬を用いた前臨床段階の実験が精力的に行われています。ビ・グル犬の体表に人工血管を用いて安定したブラッドアクセスを作成することが条件です。感染や出血などに留意して、長期使用可能なブラッドアクセスを目指しています。この技術が確立されますと、従来使用困難な血管でもブラッドアクセスを作成することが可能であり、また、自宅でも透析用針が穿刺可能にもなります。「末梢血幹細胞を用いた虚血肢治療の基礎研究」は、すでに臨床で行われている末梢血幹細胞移植の理論を補完する上で重要な研究課題です。これまで血管内皮細胞の再生に有用と考えられてきた CD34+細胞の単離移植だけでは虚血肢治療に限界があり、種々の増殖因子を生成する CD34 以外の細胞が混在することで血管内皮細胞の分化誘導が促進されることも知られています。生活習慣病としての糖尿病が増え、腎不全患者さんの虚血肢切断例も多数認められます。虚血肢切断を回避し、QOL を維持する上で重要な治療戦略であると考えています。今後は、糖尿病あるいは腎不全の発症を予防する遺伝子治療や再生医学の面でも研究していくつもりです。

移植研究の面では、ラット臓器移植モデルを用いた「ストレス応答性細胞保護物質の誘導とその虚血再灌流傷害に対する抑制効果」やラット疾患モデルを用いたウイルスベクターを用いない in vivo 遺伝子導入技術の開発により「HGF 関連遺伝子導入の基礎的研究」などが行われています。わが国では欧米に比較して脳死下臓器提供が極端に少なく、献腎移植もほとんどが心停止後提供された腎移植が圧倒的に多数を占めています。このような状況下では心や肝移植は困難であり、死戦期の各臓器細胞機能の低下を少しでも抑制するための医療技術の開発が必要です。

もう一つが遺伝子研究室であり、これまで主に内科系の研究課題が行われてきました。血液内科からは「樹状細胞を用いた造血器悪性腫瘍の免疫遺伝子学的研究」、「アンチセンス遺伝子を用いた白血病の治療」や「リンパ系腫瘍におけるマイクロサテライト不安定性の研究」などが行われています。現在、臨床応用に向けてさらに検討が加えられています。消化器内科からは「胃十二指腸疾患と Helicobacter Pylori 菌との関連性」や「炎症性腸疾患における白血球除去療法の検討」などが臨床研究として精力的に行われています。

平成 15 年度の研究成果として、全国学会4件、地方会1件の学会発表があり、さらに英文誌3題 (Transplantation International, Kidney International, Surgery)、邦文誌2題の論文発表がありました。

これらの実験研究を日夜支えていただいております研究員および動物飼育員の皆さんに感謝致します。

(人工臓器・移植・遺伝子治療研究所 所長 玉置 透)

論文

邦文

平成 15 年

わたくしと人工臓器 . 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 人工臓器 32(1): 1-6, 2003

75 歳以上の高齢者ドナーからの生体腎移植 . 田中三津子, 玉置 透, 池田 篤, 後藤順一, 村井紀元, 土橋誠一郎, 増子佳弘, 飯田潤一, 堀江 卓, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 移植 38(3): 209-215, 2003

テンポラリーブラッドアクセスとしてのダブルルーメンカテーテル(DLC)の役割と改良 . 久木田和丘, 米川元樹, 今村恵美, 江川宏寿, 池田 篤, 津田一郎, 飯田潤一, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 川村明夫 (札幌北榆病院) . 医工学治療 15(3): 144-146, 2003

血圧脈波検査装置を用いた全身麻酔下における下肢非観血的血圧測定値の検討 . 沼澤理絵, 中尾康夫 (札幌北榆病院・麻酔科), 白崎修一 (開成病院・麻酔科) . 医工学治療 15(4): 193-197, 2003

概説 - 腎保存の現況: 常温下灌流による腎保存, および Conditioning と機能判定 . 川村明夫, 池田 篤, 目黒順一, 久木田和丘, 玉置 透, 米川元樹 (人工臓器・移植・遺伝子治療研究所) . 低温医学 29(2): 29-31, 2003

急性血液浄化療法におけるリスクマネージメント . 久木田和丘, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . ICU と CCU 27(別冊): S55-S56, 2003

シャッター型ダブルルーメンカテーテルの開発 . 米川元樹, 久木田和丘, 後藤順一, 江川宏寿, 池田 篤, 飯田潤一, 増子佳弘, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . ICU と CCU 27(別冊): S192-S193, 2003

Cryofiltration による免疫調節 . 川村明夫, 飯田潤一, 今村恵美, 池田 篤, 江川宏寿, 津田一郎, 坂田博美, 堀江 卓, 玉置 透, 久木田和丘, 目黒順一, 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . ICU と CCU 27(12): 1027-1031, 2003

腎不全患者に合併した肺癌症例の検討 . 増子佳弘, 久木田和丘, 後藤順一, 江川宏寿, 池田 篤, 飯田潤一, 堀江 卓, 坂田博美, 玉置 透, 目黒順一, 米川元樹, 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 腎と透析 54(別冊), 腎不全外科 2003, p.58-60, 2003

シャント部内膜肥厚防止のための腔内照射 . 久木田和丘 , 米川元樹 , 川村明夫 , 今村恵美 , 江川宏寿 , 池田篤 , 津田一郎 , 飯田潤一 , 堀江 卓 , 坂田博美 , 玉置 透 , 目黒順一 (札幌北榆病院・外科) , 西山典明 , 西尾正道 (国立札幌病院・放射線科) . 腎移植・血管外科 15(2): 114-118, 2003

腰椎固定手術後, 腹痛とイレウス様症状を呈した1症例 . 久木田和丘 , 後藤順一 , 江川宏寿 , 池田 篤 , 飯田潤一 , 増子佳弘 , 堀江 卓 , 坂田博美 , 玉置 透 , 目黒順一 , 米川元樹 , 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) , 中尾康夫 , 沼澤理絵 (札幌北榆病院・麻酔科) . 臨牀透析 19(3): 333-338, 2003

周術期における透析患者に対する麻酔法 . 中尾康夫 (札幌北榆病院・麻酔科) . 臨牀透析 19(7): 773-778, 2003

乳腺・とくに乳癌について . 久木田和丘 , 米川元樹 , 川村明夫 (札幌北榆病院・外科) . 臨牀透析 19(7): 887-892, 2003

予後を見据えたブラッドアクセス確保を . 久木田和丘 (札幌北榆病院・人工臓器治療センター) . 臨牀透析 19(9): 1173, 2003

リンパ芽球性白血病/リンパ腫 - lymphoblastic lymphoma - . 木山善雄 , 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科) . カレントセラピー 21(5): 477-481, 2003

フローサイトメトリーによる細胞内染色の有用性 . 佐藤 壮 , 禿 蘭子 , 豊澤悠子 , 三浦玲子 (札幌北榆病院・臨床検査科) , 小笠原正浩 , 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科) . 医学検査 42(2): 120-126, 2003

保険審査における血液学的検査について . 笠井正晴 (札幌北榆病院) . 札幌医通信 No.421 , p.6-7, 2003

ヒストン脱アセチル化酵素阻害剤による抗白血病免疫の誘導 . 小笠原正浩 , 小川貴史 , 今井陽俊 , 小林直樹 , 木山善雄 , 比嘉敏夫 , 笠井正晴 (札幌北榆病院・内科) . 札幌医通信増刊 No.217 , 第 28 回札幌市医師会医学雑誌 , p.63-64, 2003

ラット肝虚血再灌流傷害に対する atrial natriuretic peptide (ANP) の効果 . 池田 篤 , 玉置 透 , 江川宏寿 , 増子佳弘 , 田中三津子 , 宮下麻美子 , 川村明夫 (札幌北榆病院 , 人工臓器・移植・遺伝子治療研究所) . 札幌医通信増刊 No.217 , 第 28 回札幌市医師会医学雑誌 , p.247-248, 2003

リンパ腫に対するリツキサン・CHOP 療法クリニカルパスについて . 波岸 舞 , 柳谷恭子 , 村重八千代 , 鈴木真澄 , 栗坪睦子 (札幌北榆病院) . 第 23 回札幌市病院学会講演集 , p.64-65, 2003

輸血副作用症状と発症患者の背景 . 禿 蘭子 , 千野 瞳 , 小矢奈々美 , 豊澤悠子 , 佐藤 壮 , 三浦玲子 , 木山善雄 , 笠井正晴 (札幌北榆病院) . 第 23 回札幌市病院学会講演集 , p.163-164, 2003

移動型撮影装置使用時の病室個室化に伴う効果 . 空閑大輔 , 西川謙一 , 水野篤司 , 富沢 智 , 中山大志 , 石谷安清 , 中明鉄朗 , 濱田敏克 (札幌北榆病院・放射線科) . 第 23 回札幌市病院学会講演集 , p.185-186, 2003

医療現場における輸血の実際 . 笠井正晴 (札幌北榆病院) . 平成 14 年度札幌市献血運動推進月間「献血のつどい」講演録 , 2003

日本医工学治療学会第 19 回学術大会印象記 . 米川元樹 (札幌北榆病院) . 日本アフェレシス学会雑誌 22(3): 223-224, 2003

末梢血幹細胞 (CD34 陽性細胞) による血管再生治療 . 堀江 卓 , 川村明夫 , 後藤順一 , 池田 篤 , 江川宏寿 , 飯田潤一 , 増子佳弘 , 坂田博美 , 玉置 透 , 久木田和丘 , 目黒順一 , 米川元樹 (札幌北榆病院・外科) . 日本アフェレシス学会雑誌 22(2): 103-109, 2003

英文

2003 年

Therapeutic apheresis in Japan . Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital). Therapeutic Apheresis and Dialysis 7(6): 497, 2003

Preconditioning with tin-protoporphyrin IX attenuates ischemia / reperfusion injury in the rat kidney. Kaizu T, Tamaki T, Tanaka M, Uchida Y, Tsuchihashi S, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Kakita A (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.). Kidney International 63: 1393-1403, 2003

Induction of specific stress response increases resistance of rat liver allografts to cold ischemia and reperfusion injury. Uchida Y, Tamaki T, Tanaka M, Kaizu T, Tsuchihashi S, Kawamura A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Takahashi T, Kakita A (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.). Transplant Int 16: 396-404, 2003

Pyrrolidine dithiocarbamate provides protection against hypothermic preservation and transplantation injury in the rat liver: The role of heme oxygenase-1. Tsuchihashi S, Tamaki T, Tanaka M, Kawamura A, Kaizu T, Ikeda A (Research Institute for Artificial Organs, Transplantation & Gene Therapy, Sapporo Hokuyu Hospital), Kakita A (Dept. of Surgery, Kitasato Univ.). Surgery 133: 556-567, 2003

A case of leukemia of appendix presenting as acute appendicitis. Tobai T, Kondo Y, Ogawa T, Imai K,

Kobayashi N, Ogasawara M, Kiyama Y, Higa T, Kasai M (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital), Tanaka J, Imamura M (Dept. of Hematol. & Oncol., Hokkaido Univ.), Sato K, Miyokawa N (Dept. of Pathol., Asahikawa Med. Coll.). *Acta Haematol* 109: 199-201, 2003

Mean fluorescence intensity (MFI) of beta2 integrin (CD11a and CD11b) expression on peripheral blood (PB) CD34-positive (CD34⁺) cells in steady state correlates inversely with the total amount of harvested CD34⁺ cells. Masauzi N, Yamada M, Saitoh S, Kawamura T, Tsutsumi Y, Obara S, Matsushima T (Dept. of Int. Med., Hakodate Municipal Hospital), Tanaka J, Imamura M (Dept. of Hematol. & Oncol., Hokkaido Univ.), Kasai M (Dept. of Int. Med., Sapporo Hokuyu Hospital), Hashino S, Asaka M (Dept. of Gastroenterol. & Hematol., Hokkaido Univ.), Kobayashi M (Inst. for Genetic Medicine, Hokkaido Univ.). *Bone Marrow Transplantation* 31: 1069-1070, 2003

A dose-finding study of glycosylated G-CSF (Lenograstim) combined with CHOP therapy for stem cell mobilization in patients with non-Hodgkin's lymphoma. Takeyama K, Ogura M, Morishima Y, Kasai M, Kiyama Y, Ohnishi K, Mitsuya H, Kawano F, Masaki Y, Sasaki T, Chou T, Yokozawa T, Tobinai K (Lenograstim/Lymphoma Study Group). *Jpn J Clin Oncol* 33: 78-85, 2003

Deoxycoformycin-containing combination chemotherapy for adult T-cell leukemia-lymphoma: Japan Clinical Oncology Group Study (JCOG9109). Tukasaki K, Tobinai K, Shimoyama M, Kozuru M, Uike N, Yamada Y, Tomonaga M, Araki K, Kasai M, Takatsuki K, Tara M, Mikuni C, Hotta T (Lymphoma Study Group of the Japan Clinical Oncology Group). *International Journal of Hematology* 77: 164-170, 2003

Allogeneic haematopoietic stem cell transplantation for the treatment of adult T-cell leukaemia/ lymphoma. Kami M, Hamaki T, Miyakoshi S (Toranomon Hospital), Murashige N, Kanda Y, Tanosaki R, Takaue Y (National Cancer Centre Hospital), Taniguchi S (Hamano-machi Hospital), Hirai H (Univ of Tokyo Hospital), Ozawa K (Jichi Medical School), Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *British Journal of Haematology* 120: 304-309, 2003

Biologic activity of RANTES in apheresis PLT concentrates and its involvement in nonhemolytic transfusion reactions. Wakamoto S, Fujihara M, Kuzuma K, Sato S, Kato T, Sawada K, Kobayashi R, Kudoh T, Ikebuchi K, Azuma H, Ikeda H (Hokkaido Red Cross Blood Center, Hokkaido Univ., Sapporo Medical Univ., Tokyo Medical Univ.), Naohara T, Kasai M (Sapporo Hokuyu Hospital). *Transfusion* 43: 1038-1046, 2003

Successful treatment of ulcerative colitis with leukocytapheresis using non-woven polyester filter. Sakata H, Horie T, Tamaki T, Kukita K, Meguro J, Yonekawa M, Kawamura A (Dept. of Surgery, Sapporo Hokuyu Hospital), Kawamura N, Ohizumi H, Saitoh M (Dept. of Gastroenterology, Sapporo Hokuyu Hospital). *Therapeutic Apheresis and Dialysis* 7(6): 536-539, 2003

Rho exchange factor ECT2 is induced by growth factors and regulates cytokinesis through the N-Terminal cell cycle regulator-related domains. Saito S, Tatsumoto T, Lorenzi MV, Chedid M, Kappor V, Sakata H, Rubin J, Miki T (National Cancer Institute). *Journal of Cellular Biochemistry* 90: 819-836, 2003

Potential roles of the nucleotide exchange factor ECT2 and Cdc42 GTPase in spindle assembly in xenopus egg cell-free extracts. Tatsumoto T, Sakata H, Dasso M, Miki T (National Institutes of Health). *Journal of Cellular Biochemistry* 90: 892-900, 2003

主催学会報告

日本医工学治療学会第 19 回学術大会

(平成 15 年 5 月 17, 18 日 北海道大学学術交流会館)

大会長 米川元樹

第 7 回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会

(平成 15 年 9 月 5, 6 日 札幌医科大学 50 周年記念会館)

会長 本田哲史

第 30 回日本低温医学会総会

(平成 15 年 11 月 28, 29 日 北海道大学学術交流会館)

大会長 玉置透

日本医工学治療学会第 19 回学術大会報告

学術大会長 米川元樹

日本医工学治療学会第 19 回学術大会は 2003 年 5 月 17 日(土)、18 日(日)の 2 日間、北海道大学学術交流会館で開催された。

医工学技術の治療への応用は日進月歩で、本学会が包含すべき領域は非常に多岐にわたっているが、実際に本学会に参加している領域はその半分にも満たない。本学会の存在意義が大きくなりつつある今日、関連分野のすそ野を広げ、さらに進歩・発展させるべく、今回のテーマは「さらなる飛躍」とした。

特別講演 1「ナショナル・プロジェクト 1 - 治療機器より健康・予防機器へ」(渥美和彦先生)、特別講演 2「ナショナル・プロジェクト 2 - ヒューマン・ボディ・ビルディング構想」(大阪大学産業科学研究所川合知二先生)、特別講演 3「埋め込み型人工心臓の現状と展望」(松田 暉先生)、特別講演 4「補完・代替医療の医工学的側面」(阿岸鉄三先生)と、特別講演を欲張って組んだが、いずれも最先端のお話をうかがうことができた。教育講演「医工学治療における抗凝固薬の適切な使用 - とくにワーファリンを中心として - 」(工藤龍彦先生)、「医工学治療機器の院内修理 - 経済的効果と責任範囲 - 」(酒井順哉先生)、「透析医療の質とは」(秋葉 隆先生)は、いずれも非常に理解しやすいようにまとめておられ、まさに教育講演であった。

本学術大会の新たな試みとして「新しい医工学技術の紹介」というセッションをもうけ、医誠会病院の三上恒治先生に「子宮筋腫・乳腺腫瘍に対する FUS: 開発状況の紹介」と題して、本邦導入第一号の収束超音波治療機器の構造、治療計画、治療効果などについてお話しいただいた。全く新たな治療手段であり、今後の発展に期待を持たせるものであった。

シンポジウム、ワークショップはいずれも 12 セッションあり、循環器外科、透析、血液浄化、再生医療、電磁波による治療、ロボット、機器の改良や安全性、教育、医療事故対策など、非常に多彩なものとなった。循環器外

科関係は4セッションあり、特に「循環器系人工臓器における感染と対策」と「血管内ステント留置の成績と問題点」の二つのシンポジウムでは、日程が日本心臓血管外科学会に引き続いて開催したこともあり、演者が日本の第一人者の面々となり、聴衆の方々から「この程度の聴衆ではもったいない」というお言葉まで頂戴したほどで、最前線のお話を聴くことができた。代謝系のセッションでは「代謝系人工臓器における感染と対策」、「重症急性臓器不全に対する医工学的アプローチ」、「アフェレシスによる免疫の変動とその効果」、「ブラッドアクセストラブルに対する標準的治療を考える」、「人工臓器の進むべき道」などは、過去の学術大会で討論された話題を引き継ぎ、さらに掘り下げるものとなった。また、「介護やりハビリを支援するロボット」では、この分野のマンパワーが不足する近い将来、間違いなくロボットの補助が必要になること、その性能から見て導入が確実になることが予測された。一方、最近の医療事故の多くが医工学治療に関係していることもあり、「医工学治療の立場からみた医療事故対策とチーム医療のあり方」では、そのテーマに対する関心の高さが非常に大きいことがうかがわれた。医工学治療では特に医師とコメディカルとの連携が重要で、診療科の垣根を越えて、チーム医療という観点で同じ土俵で討論できたことは、このようなシンポジウムは本学会でなければなし得ないことを物語っている。

一般演題は77題で、総演題数は208題と非常に多くの演題が発表された。しかし、発表者の83%が非会員ということで、開催前には学術大会参加者が少ないのでは危惧されたが、多くの方々に札幌まで足を運んでいただいた。二日間の学術大会にご発表、ご討論、ご参加いただいた640名(学生23名)の方々に心より感謝申し上げます。次第である。

第7回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会終了にあたって

会長 本田哲史

平成15年9月5日・6日の2日間、札幌医科大学50周年記念会館で第7回日本気胸・嚢胞性肺疾患学会総会を開催しました。日本気胸学会から改称し初めての学会であり、名称変更により本学会は、病態である「気胸」から疾患である気腫性肺嚢胞症を主体とした嚢胞性肺疾患を対象とした学会になりました。北海道で開催されるのは初めてでしたが沖縄県をはじめ多くの先生方に御参加いただき、特別講演2題、4つのシンポジウムおよびワークショップに合計15題、一般演題42題、合計59題のご発表がありました。

参加者は昨年とほぼ同数の110余名の参加があり、第一日目終了後会員懇親会には、多数の先生方にご参加頂き時間の許す限り会員の皆様の意見交換の場になりました。

今回の学会は嚢胞性肺疾患の基礎的ならびに臨床的研究を発展させていく大きな転換期にありました。さらに本学会が抱える問題点が明らかとなり今後の研究領域と方向性を明らかにすることができました。

2日間の学会開催中、ならびに総会開催に至るまで多くの職員の皆様のご支援をいただき書中をもちまして謹んでお礼のご挨拶といたします。

第 30 回日本低温医学会総会報告

大会長 玉置 透

平成 15 年 11 月末に記念すべき第 30 回日本低温医学会総会が「新たな低温医療をめざして」をテーマにここ札幌の地で開催された。これまで北海道で開催された本学会は、第 13 回日本低温医学研究会(札幌)を故関口定美先生が、第 21 回すなわち初めて日本低温医学会となった総会(札幌)を前理事長の宮崎保先生が、そして第 25 回総会を葛西眞一先生(旭川)が会長とされている。低温科学を利用した医療技術として、血球や組織の凍結保存や臓器移植のための低温保存法が開発されてきた。また、液体窒素やヘリウムガスなどを用いた非侵襲的な癌組織の凍結治療がある。このような Cryopreservation や Cryosurgery の分野から派生した低温医学が、近年、遺伝子細胞工学、組織凍結免疫から再生医療分野にまで多岐に渡る研究に発展してきた。

総会前日の 11 月 27 日に京王プラザホテル札幌で理事・評議員会を行い、理事長として宮崎保先生から隅田幸男先生にバトンタッチされた。この日の午後には、日本臓器移植ネットワークと北海道移植医療推進協議会の後援を得て、イブニングシンポジウム「北海道の臓器移植の推進に向けて」を開催した。約 200 名の参加者に意思表示カードを配付して、臓器提供の意味を考える機会を提示した。会長招宴は北海道大学遠友学舎で行った。北海道ならではの山海の珍味や本職の鮫職人の手によるにぎりは大好評であった。第 30 回記念総会でもあり、これまでの総会会長から一言想い出を語っていただいた。とくに低温科学の歩く歴史とも思われる朝比奈英三先生の当時の研究環境やその膨大な成果を披瀝していただき、多くの参加者に深い感銘を与えた。

11 月 28 日からの学術会議は北海道大学学術交流会館で行った。海外から Arthur W Rowe 博士には凍害に関する基調講演を、Michael J Taylor 博士には新しい概念に基づいた臓器保存液の開発に関する海外招聘講演を、新進気鋭の若林剛先生には低侵襲性凍結治療の実際の特別講演をいただいた。本総会の新しい試みとして、日本臓器保存生物医学会および低温生物工学会との合同シンポジウムやセミナーも行った。多くの方々から応募いただいた演題は、5つのシンポジウムと6つのワークショップに分けて発表していただいた。

近年、演題数が少なくなり、学会の統廃合も検討されている中で、本総会は総勢 250 名を超える参加者が集い、活気ある学会を創出していただいた。最後に、本学術総会に尽力された理事評議員、座長・司会の労をお取りいただいた多くの方々、支援をいただいた企業、当日までお手伝いいただいたの方々、理事長、院長をはじめ病院職員の皆様に厚く御礼申し上げる次第である。

編集後記

最初の病院機能評価機構の評価を受けはや5年が過ぎました。今回更新を無事受けましたが、この5年間に評価機構の要求する項目はより多く、また一段とハードルが高くなっています。患者さんのアメニティーを良くし医療の質を上げ、働く職員の満足のいく医療環境を改善していくのは一筋縄ではいきません。縄が絡まって首を絞められ身動きができなくなります。保険制度も不十分なまま、一方的な厚生労働省の役人の考えるお仕着せの政策と机上の空論に近い考えを波乗りしていかなければなりません。臨床研修病院制度もそのひとつで、建前とは全く異なった次元で各研修病院が対応を余儀なくされています。本来の研修医を養成する趣旨は正しいのですが制度の丸投げであり、厚生労働省の振り逃げで財政的・人的には各病院に大きな負担となっており、予算等の補填もなされていません。次は医療費の包括化の大きな命題があります。これも理論的には正しいのですが画一化し過ぎでもっと個別化した対策が必要です。このような時代の中、特定医療法人北楡会は札幌北楡病院、開成病院、人工臓器・移植・遺伝子治療研究所を運営し臨床研修病院としても奮闘中です。今年度の会誌を発行する時期となりました。日々の積み重ねの結果を御報告します。

札幌北楡病院 副院長 笠井正晴

(医)北楡会誌 第十七巻

JOURNAL OF HOKUYUKAI VOL.17, 2004

平成 16 年発行

発行者 川村明夫

AKIO KAWAMURA

発行所 特定医療法人北楡会

HOKUYUKAI

〒003-0006 札幌市白石区東札幌 6 条 6 丁目

HIGASHISAPPORO 6-6, SHIROISHI-KU, SAPPORO 003-0006

TEL (011) 865-0111